

令和3年度 予算施策評価表

様式1

施策名	生活道路網の整備				予算施策コード	db11	
担当部局名	土木部	道路都市局	道路建設課	評価責任者	課長 平松彰彦	連絡先	4411

1 施策の内容

施策の目標	地域間を連絡する幹線道路を補完し、地域内の社会経済を支える根幹的な道路である生活道路網を整備することにより、県民の日常生活における安全性・利便性の向上や快適な生活環境を確保する。
これまでの取り組み	<p>全国平均の道路改良率が85%(H31.4月)を越える中、本県の国道、県道の改良率は、令和2年4月現在で75.6%と、本県の道路の整備状況は、全国に比べて非常に遅れている。</p> <p>平成15年12月から「愛媛道ビジョン」に基づき重要路線180路線を選定し、圏域30分アクセス関連道路について重点化を図り整備を行ってきたところである。</p> <p>また、事業効果の早期発現を目指し、それまでの一律2車線改良を見直し、交通量や沿道状況、地形などから判断し、2車線区間、局部改良区間、1車線区間を組み合わせた1.5車線の整備手法により道路整備を行ってきた。</p> <p>しかしながら、策定後、10年以上が経過したことに加え、この間に、東日本大震災や中央道笹子トンネル事故の発生などにより、大規模災害への備えや老朽化対策が喫緊の課題となるなど、大きな社会情勢の変化があり、これらの新たな課題への対応が求められていることから、現行ビジョンの「重点化」、「効率化」を踏襲した、あらたな「愛媛道ビジョン」を平成28年2月に改訂した。</p>

成果指標名(目標の達成度合いを示す指標)

A	最適最小ネットワーク形成率	B	拠点形成を支援するための道路改良率							
選択理由	県下の重要路線(最適最小ネットワーク)を整備するに当り、県内の均衡ある整備の有無を判別する指標として、本指標を採用した。	選択理由	市町内交通の円滑化を判別する指標として、本指標を採用した。							
算定方法	道路構造令の規定に適合するよう改築(5.5m未満含む)された道路延長/道路実延長の割合で表示。	算定方法	旧市町村役場と集落中心地である小学校数(370校)間における改築(5.5m未満含む)された道路延長/道路実延長の割合で表示。							
成果と指標の関係	強	指標の種類(ストック/フロー)	ストック	+	成果と指標の関係	強	指標の種類(ストック/フロー)	ストック	指標の種類(プラスマイナス)	+

指標・事業費・人件費の推移

区分	成果指標A			成果指標B			事業費(予算)				事業費(決算)	人件費
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	予算計	国費	その他	県費		
単位	km			%			千円					
元年度	84	83	98.8%	88.8	88.9	100.1%	5,894,635	10,813	251,354	5,632,468		289,257
2年度	84	83	98.8%	89.0	89.0	100.0%	1,919,658	10,732	124,596	1,784,330	1,818,424	146,823
3年度	84	83	98.8%	89.1	89.1	100.0%	2,046,886	10,730	133,755	1,902,401	1,924,729	146,410
4年度 目標値	84			89.2			4年度当初予算					
最終目標	100			100			2,589,878	12,028	170,956	2,406,894		

2 施策の評価

県の関与の必要性		説明	生活道路は、幹線道路を補完し地域の社会経済を支える根幹的な基盤施設であり、県が積極的に関与し県下の均衡ある整備を図る必要がある。				
高い							
成果指標A		説明	道路整備の方針を示す「愛媛道ビジョン」を平成15年に策定し、重点化・効率化をキーワードに、道路整備を進め、特に重点化では、重要路線を選定し、集中的に整備を行ってきた。しかしながら、社会情勢の変化を踏まえ、平成28年2月に新たな道ビジョンを策定し、重要路線を見直した結果、重要路線に限定すれば、令和3年4月現在、改良率が82.9%となっており、国・県道の改良率75.7%を大きく上回っているほか、全国の整備水準に近い値となっているところである。 また、厳しい財政状況の中ではあるが、さらなる事業の重点化、効率化を進めることで、ある程度の向上は可能であると考えられる。				
成果動向	順調・向上						
成果向上余地	成果向上が可能						
成果指標B		説明	事業の進め方である「愛媛道ビジョン」を平成15年に策定、28年に改訂し、重点化・効率化を図り、重要路線の整備を集中的に行ってきたところであり、成果は順調に向上していると考えられる。 厳しい財政状況の中、令和3年4月現在の拠点形成を支援するための道路改良率は89.1%である。 なお、平成30年度までは、「生活圏域30分アクセス達成率」の指標として、全小学校を分母(370校)とし、旧市町村役場から30分で到達可能な小学校の割合としていたが、物理的に不可能な4校を除き目標達成済のため、平成31年度から「拠点形成を支援するための道路改良率」に指標の変更を行った。				
成果動向	順調・向上						
成果向上余地	成果向上が可能						
参考：構成事務事業の評価の平均値	成果動向	2.17	順調・向上	成果向上余地	1.67	成果向上が可能	

今後予測される環境変化	本県では、大洲・八幡浜自動車道の八幡浜道路、夜昼道路、大洲西道路の3工区を並行しての整備推進など、大規模プロジェクトを推進するための多額の事業費が必要となるほか、県が管理する道路や河川などの社会インフラの老朽化が急速に進行し、維持管理費用が必要になるなど、社会資本整備を取り巻く環境はより厳しさを増しており、今後の整備に必要な財源の確保が懸念される。
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 施策の今後の方向性

<p>平成28年2月改訂した「愛媛道ビジョン」に基づき、従来から推し進めてきた「重点化」や「効率化」をより一層、推進するとともに、地域住民等と一緒に、道路の維持管理の実施や整備の在り方を検討する「連携・協働」を加えて、道路整備を積極的に進め、今後とも、施策全体としての成果を維持していく。 特に、中山間地域等に対しては、すれ違い困難箇所の解消など、整備効果の高い箇所への投資を行い、道路サービスの向上に努めていく。</p>

4-1 事務事業管理シート（評価対象事業）

										予算施策名					db11				生活道路網の整備															
1 生活道路改良整備事業費										コスト (単位：千円)					R元年度				R2年度				R3年度				R4年度				最終目標			
指標種類1	指標名称1			単位	計画	88.8	89.0	89.1	89.2	100	事業費計	2,622,327	1,888,038	2,017,690	2,550,262	評価	成果動向	3成果横ばい		向上余地	2一定の成果向上余地あり													
成果	+	ストック	拠点形成を支援するための道路改良率	%	実績	88.9	89.0	89.1		国費				早期効果が発現可能な箇所への予算重点配分により、一定の成果向上余地がある。	方向1		このまま継続																	
					達成率	100.11%	100.00%	100.00%		その他	119,689	124,596	133,755				170,956																	
指標種類2	指標名称2			単位	計画	85	86	86	100	県費	2,502,638	1,763,442	1,883,935				2,379,306	方向2																
成果	+	ストック	離合困難解消率	%	実績	85	85	85		事業費計	1,602,037	1,790,703	1,902,785			方向3																		
					達成率	100.00%	98.84%	98.84%		国費																								
指標種類3	指標名称3			単位	計画	115	123	120	118	その他	48,582	51,800	63,500	見直し方向性																				
活動	+	70-	事業箇所数	箇所	実績	115	123	120		県費	1,553,455	1,738,903	1,839,285																					
					達成率	100.00%	100.00%	100.00%		人役	18.4	21.5	24.0																					
実施期間	初期	終期	事業の概要							人件費	125,231	145,469	145,200																					
			地域住民の生活環境の向上を図るため、生活圏域を結ぶ幹線道路網である県管理国道や県道において、現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設を行うものである。																															
2 今治小松自動車道周辺整備対策費										コスト (単位：千円)					R元年度				R2年度				R3年度				R4年度				最終目標			
指標種類1	指標名称1			単位	計画	1	2	1	1	17	事業費計	28,491	20,888	18,466	27,588	評価	成果動向	4成果順調である		向上余地	2一定の成果向上余地あり													
成果	+	70-	影響解消箇所数	箇所	実績	1	3	2		国費				国が実施する今治小松自動車道の整備進捗に併せ、今治市が周辺整備対策事業を実施することで、円滑な事業実施に貢献しており、成果は順調である。	方向1		このまま継続																	
					達成率	100.00%	150.00%	200.00%		その他																								
指標種類2	指標名称2			単位	計画	2	2	3	3	県費	28,491	20,888	18,466				27,588	方向2																
活動	+	70-	工事実施箇所数	箇所	実績	3	6	3		事業費計	28,491	20,888	16,807			方向3																		
					達成率	150.00%	300.00%	100.00%		国費																								
指標種類3	指標名称3			単位	計画					その他				見直し方向性																				
					実績					県費	28,491	20,888	16,807																					
					達成率	-	-	-		人役	0.1	0.1	0.1																					
実施期間	初期	終期	事業の概要							人件費	681	677	605																					
		H26	今治小松自動車道の建設により影響を受ける地域において、今治市が実施する周辺整備に対して助成するもの。																															
3 指導監督事務費										コスト (単位：千円)					R元年度				R2年度				R3年度				R4年度				最終目標			
指標種類1	指標名称1			単位	計画	53	53	53	53		事業費計	10,813	10,732	10,730	12,028	評価	成果動向	3成果横ばい		向上余地	1成果向上余地が小さい													
成果	+	ストック	市町道の改良率	%	実績	51	52	52		国費	10,813	10,732	10,730	12,028	国土交通大臣の委任に基づき、国から配分された事業費により行う事業であり、成果向上余地は小さい。		方向1	このまま継続																
					達成率	96.23%	98.11%	98.11%		その他																								
指標種類2	指標名称2			単位	計画	40	40	40	70	県費				方向2																				
活動	+	70-	市町からの交付申請の審査件数	件	実績	40	48	77		事業費計	6,127	4,421	5,137	方向3																				
					達成率	100.00%	120.00%	192.50%		国費	6,127	4,421	5,137																					
指標種類3	指標名称3			単位	計画					その他				見直し方向性																				
					実績					県費																								
					達成率	-	-	-		人役	0.1	0.1	0.1																					
実施期間	初期	終期	事業の概要							人件費	681	677	605																					
		S32	国土交通大臣の委任に基づき、市町が施行する道路事業の補助金等の交付に関する事務について、県が指導・監督・検査等を行い、事業の適正な実施を図る。																															